



国際ロータリー第2750地区
東京多摩グリーンロータリークラブ
2015～2016年度

会報



恐れず改革、フレッシュな25周年クラブを！

2016. 01. 13 第1176回例会 No. 26-24 2016. 01. 20発行

◎司会 SAA・親睦委員会 田崎 博実

◎点鐘 会長 宮本 誠

◎ロータリーソング「それでこそロータリー」
ソングリーダー 菊池 敏

◎お客様紹介 会長 宮本 誠
本日はごさいません。

◎会務報告 会長 宮本 誠
例会後に定例理事会がございます。

◎幹事報告 幹事 入沢 修自
回覧：R I 事務局財団室NEWS、東京レインボーRC
「ポリオ撲滅チャリティーマラソン大会 IN お台場」開催の御案内
他クラブ例会変更については事務局までお問い合わせ下さい。

◎次年度会務報告 会長エレクト 小泉 博
本日、例会前に第1回被選理事会を行いました。役員、理事8名全員参加で行われました。議題は、被選理事会開催日の決定として、毎月第二回例会後に行います。継続審議として、委員会組織の編成、年間予定の作成を行います。

【 諸事報告 】

◎各委員会・他

★ ” Who am I “

会報記録委員長 森本 由美

今年最初の who am I です 皆さん奮ってご参加下さい。

◎出席報告 出席奨励委員会 吉沢 洋景

会員総数	29名
出席義務免除者	7名
出席者数	18名
出席義務者	18名
出席免除者	6名
計	24名

出席率 24/28 = 85.71%

◎ニコニコBOX SAA・親睦委員会 森本 由美
宮本 誠 寒くなったり暖かかったり 春待ちど
おいしいですね。

入沢 修自 お正月はおもちやお酒であらためて
健康について考えさせられます。

足立潤三郎 大変寒くなりました 体調管理に充分
気を付けて下さい。

大松 誠二 今朝は寒かった 雪のように真っ白
だった。

萩生田政由 今年も宜しく願い致します。

伊澤ケイ子 寒くなりましたネ。田村会員の卓話
楽しみです。

菊池 敏 田村会員の卓話楽しみにしております。

小泉 博 田村さん卓話よろしくお祈いします。

峯岸 忠 田村さん卓話よろしくお祈いします。

寒さ厳しくなりましたお身体大切に
しましょう。

宮村 宏 田村さん卓話楽しみです。

森本 由美 田村会員、地域の健康には、これからも
宜しくお祈いします。

卓話楽しみにしています。

村上 久 田村さん卓話楽しみにしています。

斎藤 誠壽 田村様お話楽しみにしております。

関岡 俊二 田村さん卓話楽しみにしています。

田崎 博実 本日は久しぶりの司会です。

津守 弘範 田村先生卓話よろしくお祈いします。

本日の合計¥17,000 (累計¥573,668)

◎「オール多摩健幸甲子園」について

田村 豊プログラム委員長

昨年プレ大会を行い、今回は第1回となります。昨年は
当クラブ大松会員より「障害者テニススクール」の発表
をして頂きました。

「健幸甲子園」のイベントは、多摩市、又は市外のボラ
ンティア、NPOの方々が地域の人や、いろいろの人を
支える仕事をしている活動を発表しあうイベントです。
RCでも「障害者テニススクール」を通して、障害を持



った方々にテニスを通して社会参加に通じる活動を支えているという事で発表してもらいました。この大会で16程の団体のエントリーがありました。優勝した団体は、定年退職をして暇になった方々で、手先の器用な方々が、子供の壊れたおもちゃの修理をしようというボラン

ティア団体です。準優勝の団体は壇上で認知症予防体操を披露してくれました。

会場で発表する16団体以外にパネル展示で参加してくれた団体もあります。これから多摩市という地域をボランティアの力で皆なで支えようと盛り上がった訳です。そもそも「健幸甲子園」とは何かという事をお話します。これからが本題です。地域の支えあいという事で、日本中、世界中が高齢化社会になっていく訳ですが、多摩市の場合1975年多摩ニュータウンに入居している頃は、非常に若い世代の人達だったのですが、一斉に高齢化してきました。日本全国の平均よりも上回り、2015年には高齢化率が40パーセントを超え、日本でも代表的な街になってしまいました。こういった社会になると何が起こるといいますが、まず考えて頂きたいと思います。高齢化になりますと、いろいろな意味で人に支えてもらわなければなりません。

支えてほしい人、つまり高齢者、支える人、つまり若い人、この人数割合がどういう風になっているかというと、日本が高度経済成長といわれた時代は大体高齢者一人に対して、支える大人が7人おりました。以後比率が変わっていく訳です。現在は高齢者一人を支える大人が3人です。これを騎馬戦型と言います。

将来はどうなるかというと、実際に支えてほしいなあという人と、支える力のある人の割合が1対1になってしまいます。これを肩車型社会と言います。かつては高齢者7分の1を支えればよかったです。将来は一人で一人を支えなければいけないので、負担は甚大な訳です。以前は高齢者をどう支えてきたのか、江戸時代、明治時代は村というコミュニティで支えあってきた訳です。それが段々時代が近代化してきますと、そういった運命共同体という地縁が薄れて一人一人が自立した人になってきます。そしてハンディキャップを持った人を支えるのは、個人とか地域の人ではなくて、国家の仕事、社会福祉の仕事だと考えが変わってきた訳です。ですから国が税金を徴収して、そのお金で介護をする人、あるいは治療をする人、そういう人達にお金を払ってそういう社会文化がおきてきた訳です。それが今日まできている訳なのです。つまり、公的なお金を頂いてそれを職業としている人達は私達医者もそうですが、歯医者さんもそうです。介護関係、ヘルパーさんもそうです。皆さんプロなんです、ところがこういう形になってきますと、そういった生業をしている人達をどんどん増やしていても数が足りなくなります。すでに日本の人口の中で介護福祉に就労している人が10人に1人に近くな

ってきています。このままいきますと高齢者が増えて若い人にそういう職業をやらせようとしますと、日本の人口の4人に1人が介護に携わらなければならなくなってしまうという、困る事態になります。国家として治安の維持をしたり、国防を考えたり、或いは輸出産業を支えて外貨を稼がねばならない。そういった事も大切なのです。このままの形ではいけないのです。実際にプロに払うお金は定価で決まっておりますので、それを思い切り値段を下げてしまうという、今でも介護に携わっている人の人件費が安くて安くて、優しい気持ちでヘルパーになったけれどもこれではとても食べてゆけないと離職してしまう人が沢山いる訳です。そういった意味で切り詰めるのは限界があります。最後は古来の江戸時代、明治時代の地域のコミュニティが、そういった困った人達を支える様な形を取り戻さなければいけないという、そういった問題意識がある訳です。先祖返りという意味で哀しいと思う人がいるかもしれませんが、本来地域の社会はそういう風にして助け合っていくのが、本来の人間社会のあり方だと考えるとすれば、そういった社会をスムーズに移行させる努力をこれからも始めなければならぬと、そういった問題意識もある訳です。年をとれば皆な支えられる介護を要する人になってしまうかという、実はそうでもないのです。例えば80才の方がいっぱいおりますが、80才で本当に老人ホームに入ったり、介護にお世話になったりしている人もおりますが、元気で社会を思いっきり支えている人もいます。日野原先生は100才を超えていますが、社会を支え、社会にいろんな情報を発信して頑張っています。ですから支える人の支え手をたくさん作るという事と同時に、本当の意味で支えなければいけない人なるべく少なくする。高齢者でも元気で健康な高齢者でいてもらう事がとても大事な事なのです。実際に80才の人にしても、自ら望んで支えられる側になりたいと思っている人は少ないと思います。出来れば元気で健康で元氣極に近づいてもらいたいと思います。すでに元氣極にいる人達は役割をもってすでに現役で社会に貢献をしている人達ですけれども、そこまでいかなくても、体は動いても、閉じこもってほとんど鬱状態になって何にもしない人もいます。少しでも元氣極の方に動いてもらうことがとても大事な事なのです。例えば一人暮らしで家にもりきりの人も、捨て猫をたまたま拾ってきて猫をペットとして飼い始めたとします、そうしますとこれは、とても元氣極の方に動くのです。この人は支える物を得た訳です。それから実際に現役の役割を持っていなくても、カラオケ等の複数の趣味仲間がいる、こういう人達は、カラオケは心肺機能をトレーニングするのに、仲間がいる人と交わりを持つという事はボケ防止にとっても役立ちます。実際に外に出歩かなくても、家族や友人がいるという事はとても大事な事です。ですから世の中、地域をあげて高齢者が元氣極に行けるように促す事が大事だと思います。高齢者の危険度についてですが、高齢者と言ってもいろんな状況によって社会的危険度が全然違います。大家族、お孫さんと住んでいる人、この人は見守ってくれる人が沢山いる、孫がいればお嫁さん

が働きに行くとき、「私が孫の世話をしましょう。」とより役割が持てます。こういう人は危険度が少ないのです。一方危険な極というのは一人暮らしで、独居していると思われてくれる人もなく、話しかけてくれる人もいない、大勢で暮らしている人と比べて一人暮らしの人は3倍ぐらい危険度が高い訳です。こういう人を支えるのは社会の仕事としてもとても重たい仕事となります。多摩ニュータウンに住んでいる高齢者はどこの人が多いか、実は一番危険なゾーンに入ってくる人が極端に多くなってくると思います。実際に農業などをやっている方々は定年もないし、大勢で住んでいるので危険度は少ないのですが、サラリーマンは定年退職で役割がストンとなくなると、その日から努力して捜さないで自分の社会的役割を作ることが出来なくなります。そういう企業戦士、サラリーマンが沢山住んでいるのが多摩ニュータウンだと思うのです。そういう人達を何とかしないと実際に一人暮らしの人達を一緒に集めて、「さあ一緒に暮らしましょう」という事は難しいです。しかし、実際に仕事も役割もないのですが、実は現役時代にすごい働きをしていた、高いスキルを持っていたという人達にうまく仕事を持ってもらえるようなマッチングをする仕組みが出来ればかなり良い方向に行くと思います。さきほど肩車型社会と言いましたが、背中の人を支える職業としていた医療に携わる人、介護福祉をする人、この人だけでなく困った人の手助けをしたい、自分の出来る範囲で人の助けになりたいと思っているこの市民層がとても大事なのです。こういう方がとても沢山いると思います。こういう人達がうまく社会の助け手となるようにアレンジするのが行政の仕事だと思うのです。専門職と市民が新しいコミュニティーの担い手として協力して社会を支える、そんな地域にしたいと思っているのですが、専門家は専門家、ボランティアはボランティアで動くともこれも又効率が悪いのです。実際に車椅子を押すにもこれは技術がいます。誰にも押せると言うかも知れませんが、下り坂をそのまま持っていくとその重さで落ちて行ってしまい車椅子に乗っている人を大けがをさせてしまいます。下り坂に入る時は車椅子の前で支えなければなりません。いくら心があっても、そういった知識がないとかえって困った結果を起してしまいますので、専門家がそういった部分では要所をしっかりとアドバイスする混成チームを作らなければなりません。「オール多摩健幸甲子園」というのは、市民のグループが表に出てきて皆んなで一緒に地域を支える活動しましょうと一つの起爆剤になればいいなと思って始めたイベントなのです。今年がいよいよ第一回目となりまして、昨年と違いますのは時期が1月24日(日)せいせきのヴィータで、ふれあいフォーラムの中で行うことになりました。前日は多摩市のボランティア祭りですので、そういった思いを持っている人達が1月23、24日にせいせきに集まる訳です。実は「健幸甲子園」は午前、午後とやるのですが、お昼の時間を使って、地域でパフォーマンスを行っている団体が、歌と踊りを披露してくれます。その中で多摩グリーンロタキッドクラブの合唱が予定されてい

ます。参加団体は去年の16団体から23団体と増えております。多摩市広報を通して募集を致しましたら40以上の団体が応募してくれました。今年は近隣の市からのボランティアの発表も予定しております。これはイベントをやっておしまいでなく、地域にどう関わっていくかが大切だと思います。行政、政治はどう考えているかというボランティアの人達を取り入れていかなければだめだろうという問題意識をはっきり持っていると思います。今回介護保険法が改正になりました。介護保険法の中で、生活支援総合事業という新しい仕事の枠組みが出来まして、実際にNPO、ボランティアの人達に今迄やってた介護の仕事に入ってもらって一緒にやってもらおうという図式なのです。

人件費的にはプロがやる人達よりもかなり安く出来るのです。こうして何かをしようと思っている人達を実際に公的な仕組みの中に組み込もうという意図もあります。

多摩市も来年度から、生活支援総合事業というのを始めるという事です。最初の年ですから残念ながらこういった人達すべてを取り込んでやろうという事ではなく、初年度は社会福祉協議会と、シルバーボランティアの二つだけが対象となるのですが、この先こういう人達も順次いろいろ公的な仕組みの中にも入り込めるように仕組みづくりをしてもらおうと、私も一緒にやっている仲間と行政に働きかけているところです。今年も市長に参加してもらい盛り上げていこうと思っています。皆様もどうぞ御来場下さい。

◎お礼と閉会点鐘

会長 宮本 誠

(今週の担当 関岡 俊二)

◎ 本年度特別企画 第5回「私は誰でしょう」



回答率はこれまでの中で一番でした!

今年最初の「Who am I?」企画

小坂会員の今と違って、逞しい体格の若かりし頃のお姿です。予想に反して当選者は13名でした。